

フッ化物洗口の手引き 登別市教育委員会

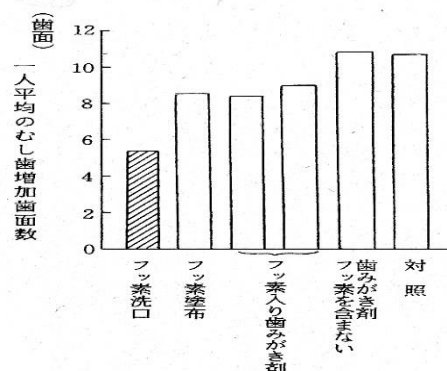
●○はじめに○●

フッ化物洗口は、方法の簡便さ、高い安全性、確実な予防効果など公衆衛生的特性に優れていることから保育所・幼稚園、学校などの集団施設での応用が行われ、令和元年度末現在での実施状況は、全国で約14,158施設、約152万人となっており、年々増加する傾向にあります。

令和3年度の登別市内小中学校での実施人数は、小学校で1,779人（実施校の児童の92.0%）、中学校で910人（実施校の生徒の88.0%）となっています。

《フッ化物による予防》

フッ化物の利用により、初期のむし歯を修復する作用（再石灰化）や酸に溶けにくい丈夫な強い歯が作られます。中でも、フッ化物洗口は、むし歯予防対策として、最も大きな効果をもたらすことが厚生労働省から示されています。



各種むし歯予防法の予防効果の違い
(トーレル・エリックソン)

*フッ化物の利用方法

- 洗 口 薬液を口に含み約30秒～1分間口を閉じてブクブクうがいをする
※学校では、この方法で実施します。【永久歯の予防法】
- 塗 布 生えはじめの歯に薬剤を塗る 【乳歯・永久歯の予防法】
- 歯磨き フッ化物配合歯磨剤で歯を磨く 【乳歯・永久歯の予防法】

《フッ化物の安全性と効果》

フッ化物利用の方法のうち、最も早くから行われているのは水道水フッ素化です。これは、1945年アメリカの2都市とカナダの1都市が、飲料水のフッ素量をコントロールすることにより、むし歯を効果的に予防できたことが始まりです。

その後、このような水道水への適量のフッ素添加法の他に、歯の表面に直接フッ素を作用させるフッ素塗布やフッ化物洗口等の局所応用も世界各地で実施され普及してきました。このような、フッ化物を利用した、さまざまなむし歯予防法については、既に多くの研究者や研究機関が長年にわたって検証しており、安全かつ有効であるとの結論が出ています。

このような経緯を踏まえ、WHO（世界保健機関）、FDI（国際歯科連盟）をはじめ、国、日本歯科医師会、日本口腔衛生学会など内外の専門機関・専門団体では、むし歯予防におけるフッ素利用の有効性と安全性を認め、その利用を推奨しています。

また、平成15年1月には厚生労働省からフッ化物洗口の安全性と効果について最新の研究成果を盛り込んだ『フッ化物洗口ガイドライン』が示されています。

《フッ化物洗口に使用する薬剤について》

登別市では、令和元年度から、う蝕予防フッ化物洗口剤「劇薬 ミラノール®顆粒 11%（フッ化ナトリウム洗口剤）」を使用しています。

劇薬 ミラノール®顆粒 11%添付文書より一部抜粋

＜洗口方法＞薬液を口に含み、約 30 秒間薬剤が十分に歯面にゆきわたるように含み洗いさせる。

次に薬液を十分に吐き出させる。

＜用法・用量に関連する使用上の注意＞

- 1、使用に関しては間違いなく洗口ができることを確認してから使用させること。
洗口ができない場合には、水で洗口を練習させること。飲み込む恐れのある幼・小児には使用しないこと。
- 2、飲み込まないようによく指導すること。
- 3、顆粒のままでは劇薬であるので、必ず洗口液をつくり使用するよう指導すること。
また、指定した使用量を守るよう指導すること。

【使用上の注意】

1、重要な基本的注意

- (1) 歯科医師の指導により使用すること。
- (2) 誤って飲用し、嘔吐、腹痛、下痢などの急性中毒症状を起こした場合には、牛乳、グルコン酸カルシウムなどのカルシウム剤を応急的に服用させ、医師の診療を受けさせること。

2、副作用

本剤は、使用成績調査等の副作用の発現頻度が明確となる調査を実施していない。

その他の副作用

以下の副作用があらわれた場合には、洗口を中止するなど、適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症	過敏症状 口やのど：口唇周囲の腫れ 皮膚：かゆみ、じんましん、発疹

3、妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中及び授乳中の使用に関する安全性は確立していない。

4、過量投与

歯の形成期～萌出期にあたる 6 歳未満の小児が繰り返し誤飲した場合、フッ化物の過量摂取による班状歯が発現する可能性がある。

《フッ化物洗口の申込方法について》

各ご家庭に申込書を配布します。その申込書に希望の有無を記入し、学校へ提出してください。年度途中での申し込みや中止もできますので、その際はお気軽に担任にご連絡ください。また、実施にあたっての費用は**無料**です。